

織豊期主要人物 居所集成

藤井讓治 編

▶B5判・480頁／定価7,140円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1579-9

2011年7月刊行

織豊期を生きた政治的主要人物の
移りゆく居所の情報を編年でまとめた研究者必携の書!!

▶裏面に組み見本掲載

◆ 内容目次 ◆

織田信長の居所と行動	堀 新 (共立女子大学文芸学部教授)	毛利輝元の居所と行動 (慶長5年9月15日以降)	穴井綾香 (九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者)
豊臣秀吉の居所と行動 (天正10年6月2日以前)	堀 新	小早川隆景の居所と行動	中野 等
豊臣秀吉の居所と行動 (天正10年6月以降)	藤井讓治 (京都大学大学院文学研究科教授)	上杉景勝の居所と行動	尾下成敏
豊臣秀次の居所と行動	藤田恒春	伊達政宗の居所と行動	福田千鶴 (九州産業大学国際文化学部教授)
徳川家康の居所と行動 (天正10年6月以降)	相田文三 (虎屋文庫研究主事)	石田三成の居所と行動	中野 等
足利義昭の居所と行動	早島大祐 (京都女子大学文学部准教授)	浅野長政の居所と行動	相田文三
柴田勝家の居所と行動	尾下成敏 (京都大学等非常勤講師)	福島正則の居所と行動	穴井綾香
丹羽長秀の居所と行動	尾下成敏	片桐且元の居所と行動	藤田恒春
明智光秀の居所と行動	早島大祐	近衛前久の居所と行動	松澤克行 (東京大学史料編纂所助教)
細川藤孝の居所と行動	早島大祐	近衛信尹の居所と行動	松澤克行
前田利家の居所と行動	尾下成敏	西笑承兌の居所と行動	柚田善雄 (大手前大学総合文化学部教授)
毛利輝元の居所と行動 (慶長5年9月14日以前)	中野 等 (九州大学大学院比較社会文化研究院教授)	大政所の居所と行動	藤田恒春
		北政所(高臺院)の居所と行動	藤田恒春
		浅井茶々の居所と行動	福田千鶴
		孝蔵主の居所と行動	藤田恒春

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 TEL.075-751-1781 FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/ e-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行: 思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	織豊期主要人物居所集成	本体6,800円 (税別)	ISBN978-4-7842-1579-9
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを最寄りの書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)			書店番線印

- ・居所の確定は、従来個々の研究者が、特定の人物、特定の時期に限って行ってきたため不完全であり、公にされることもきわめて少なかった。本書は、多くの研究者が複数の人物を取り上げ、居所情報を複眼的に確定した成果。
- ・各章は「略歴」と「居所と行動」で構成され、現在知りうる限りの居所情報を編年で掲載。

9月には一応の完成をみたようである。

この他、天正11年の豊ヶ岳の戦い後に坂本城を手にし、しばしばそこを訪れた。また同15年には、坂本城を廃し大津城を築いている。

【居所と行動】

天正10年(1582)6月～12月

【概要】

秀吉は、本能寺の変が起こった天正10年6月2日には備中高松に在陣し、5日高松を築ち、7日に姫路着、9日姫路を發ち、13日山崎で明智光秀を滅ぼし、同日京都、翌日は近江、その後美濃・尾張へ出陣、6月27日清洲会戦。7月9日京都着。その後山城山崎を拠点とし、京都・山崎間を行き来するほか、姫路・丹波亀山に出かけている。12月7日、美濃に向けて出陣、同月28日に京都に帰陣。

【詳細】

6月4日備中高松在(『当代』)。5日高松在(9月20日付下国愛季宛秀吉書状「高松と申城江(中略)同五百迄封陣仕(中略)同七日三播州能路之城へ打入、同九日より京都へ切上、十二日二城州於山崎表及一戦」秋田家文書)。5日野戦を経て沼津(5日付中川清秀宛秀吉書状「尚々の戦迄打入樂之処御状披見申衆今日成次第ぬま差通申候」梅林寺文書)。6日姫路着(8日付松井康之宛移羅七書状「去六日二至能路秀吉馬被納候」松井家録)、前掲9月20日付愛季宛書状では7日)。9日姫路発(前掲9月20日付愛季宛秀吉書状)。同日大明石・兵庫着(11日付松井友閑宛秀吉書状「一昨九日至大明石令騎足(中略)夜中二兵庫まで兼陣候間尼崎迄打田城衆」萩野山之氏所藏文書)。10日淡路岩屋へ渡海を報じるが渡海せず(9日付広田内藏宛秀吉書状「洲本城へ管平右衛門入城之由注進候間以今午刻至大明石令着陣候明日渡海被取巻可貴下候」広田文書)9日付安宅信康宛秀吉書状「我々明日岩やまで先可令渡海被覚候ハハ」豊田村朝葉原文書)。11日尼崎着(18日付何田次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「一日一夜に播州能路へ打入候事(中略)夜放なしに十一日之辰刻二足騎迄令着陣」金井文書)。12日富田着(前掲18日付何田次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「同十二日(中略)富田二一夜兼相懸申候事」14日付何田次郎右衛門尉外1名宛秀吉書状「同十二日富田二一夜致在陣」松花堂所藏古文書集)。13日山崎の戦い(前掲18日付何田次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「去十三日之晩二山崎二兼取申候」。同日京都着(『官経』「羽衆筑前守從播磨國上洛了、本国寺二被居了」。14日三井寺在(『兼見』「羽衆筑前守(中略)今日三井寺陣所也」。18日近江在陣(『多聞院』)。23日ころ美濃在(同日付美濃立政寺宛秀吉書状「立政寺文書」。27日清洲在(清洲会戦)。28日津船、石たて、早尾を通り長浜に帰陣(28日付何田次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「慶元限明候衆今日津船をとり宛二ハ石たてはや尾二令着陣それより長浜州城候」高木文書)。

7月3日・4日長浜在(『兼見』4日付何田次郎右衛門尉他1名宛秀吉書状「至長浜州城候」小川文書)。9日京都着(11日付錦崎僧生宛秀吉書状「一昨九日令上洛近日至播州能路可揚城候」扇島文書、ただし「運成船」於京都羽衆筑前守格札被讀之候、從寺門モ可有御書信旨、「多聞院」8日条「今日城合殿若子三

豊臣秀吉の居所と行動(天正10年6月以降)

藤井 譲治

【略歴】

秀吉は、天文5年(1536)あるいは天文6年2月6日、尾張愛智郡中村に生まれたとされる。生年については、桑田忠親氏が、天正18年(1590)12月吉日の石通白杉本坊宛伊藤秀盛の願文に「関白様 西之御年 御年五十四歳」とあることから天文6年とされるが、北野社に慶長2年(1592)3月1日に奉納された釣燈籠の銘には「御成^丙為御祈禱也」とあり、天文5年の可能性もある。

信長に仕え、永祿8年(1565)以前に木下藤吉郎秀吉を名乗り、天正元年7月ころ信長から羽柴の姓を与えられる。天正3年には筑前守を名乗るが、朝廷からの諸大夫叙任がなされたものではないようである。

残された口宣案によれば、天正10年10月3日従五位左近衛権少将、11年5月22日従四位下参議に叙任されているが、天正12年11月21日従三位大納言にあたって遷り叙任されたものであり、朝廷の実質的地位は、大納言叙任が最初である。ついで天正13年3月10日従二位内大臣、7月11日従一位関白に叙任された。天正14年12月19日太政大臣任官にさいし「豊臣」姓を朝廷から与えられる。

天正19年12月25日に、関白職を秀次に譲り(『公卿補任』は秀次の関白任官を12月28日とする)、以降「太閤」を通称とし、慶長3年8月18日に伏見城で死去する。

山崎の戦いの後、山崎に城を築き畿内の拠点とするが、天正11年5月には、池田恒興より大坂を譲取り本拠とし、そこに城郭を築いた。天正14年2月に京都内野に城郭を築くため縄打ちを行い、それを聚楽と名付け、翌年9月13日に移徙し、本城とした。関白を秀次に譲るにあたって、聚楽を秀次に渡し、みずからの居所を再び大坂城に定める。天正20年(1592)8月ころ伏見指月に關居所として縄張りがなされ、翌年閏9月に移徙。ついで、秀次の誕生を機に拡張工事がなされ、文祿5年(1596)には完成をみるが、同年閏7月13日の大地震で、ことごとく倒壊した。地震後、城地を伏見木幡山に移し再建に取りかかり、翌慶長2年5月に秀頼とともに移徙した。また、同年4月に禁裏の東南に新城が計画され、

- ・政権の中心人物、政権中枢の人物、有力大名、有力武将、僧侶・文化人、公家、政権に関わる女性たち、総勢25名を収録。
- ・辞書的な利用はもちろん、通覧すれば秀吉の天下統一の道程や戦国武将の動静、同時代人たちの交流を詳細に追える。

(組み見本は約60%縮小)

天正10年6月2日 本能寺の変 武将たちの居所

◆織田信長——京都

未刻とも(『別本兼見』)、申刻ともいう(『兼見』)。6月1日諸家の御札を受け(『兼見』「別本兼見」『官経』)、勅使を迎える(『陣要』)。2日未明、本能寺で明智光秀の襲撃を受け自害する(『陣要』「兼見」『別本兼見』『官経』ほか)。

◆豊臣秀吉——備中高松

5月8日備中高松城を包囲する(5月19日付清江大炊元宛羽柴秀吉書状「去八日、同備中内高松と申城取巻候」清江文書)。9日高松城を包囲中(同日付村上元吉・武吉宛毛利輝元書状「備中境事、平今羽柴令居陣候」村上文書)。そして6月2日の本能寺の変まで備中高松城を包囲する。

◆徳川家康——堺

6月2日堺→宇治田原、3日宇治田原→山田→朝宮→小川、4日小川→向山→丸柱→石川→河合→栢橋→鹿伏尾→関→亀山→庄野→石薬師→四日市→那古(石川忠総筆書押「愛知編患1」。同日大浜着(家忠志)。5日・13日岡崎在(『家忠志』)。14日岡崎→鳴海(同日付吉村氏

◆柴田勝家——魚津

が、勝家らは守備を堅固にして、景勝を寄せ付けなかった。5月26日、景勝や松倉城に籠もる上杉勢が越後へ退いたことで、魚津城は孤立する。そして阿波は勝家から織田勢の手に落ちた。6月3日の出来事である(以上「高山・近世」上巻2「公記」)。

◆細川藤孝——宮津

月12日には再度上洛し安土へ向かっている(『兼見』)。19日に実母船橋氏死去(『編考』)。6月2日の本能寺の変のさいは宮津へ帰国していたらしく、実の一報は代理として信長の迎えに出ていた米田求政からもたらされた(『編考』)。この時刻髪して幽斎と号す。

◆丹羽長秀——堺 or 大坂城

本能寺の変当日、長秀が上方にいたことは確かとみられるが、それが堺か大坂城かは不明とせざるを得ない。秀吉が大村由己に記させた「惟任退治記」によれば、この日、長秀は堺に在陣している。一方、1582年(天正10)11月5日付の1582年度日本年報追信の記事、す

読者対象・キーワード

- 研究者(戦国・織豊期・近世史)
- 公共・大学図書館、史料館
- 戦国時代・戦国武将に興味がある方
- 古文書解読のツールとして
- 郷土史・地方史研究者の方
- 都道府県史・市町村史編纂に携わる方